

平成27年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」 ひびきあうことば きょうどう ひびきあういのち “響Do” ひびきあうまなび	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉 (学校の使命)	小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。
			〈ビジョン〉 (将来の学校像)	・行くのが楽しいな学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	【現状 (○成果●課題)】
	<p>○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており、小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。</p> <p>○ 学校教育目標『自分を創る』により、教職員・児童生徒・保護者・地域が、双方向的な教育を深化させている。</p> <p>● 各学力調査において、知識・技能を活用する問題に課題がある。</p> <p>● 呉市及び県の動向(小中一貫教育研究第3期等、「学びの変革」全県展開 [H30])を踏まえた体制やシステムづくりを推進し、教育活動の段階的なステップアップを図る必要がある。</p> <p>● 生徒実態を踏まえ、特別支援教育の視点による授業づくりの推進が求められる。</p> <p>● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとした教育活動は、本校教育の基盤として継続する。</p> <p>上記の現状より、次の5点を今年度の重点とする。</p> <p>①「自分を創る」ストーリーを自分の言葉で語る生徒の育成 ②思考力・表現力の向上 ③小中一貫教育校として新たな価値を創造する学校組織の構築 ④誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保 ⑤警固屋地域における学校・家庭・地域による双方向的な教育の推進</p>

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も 生きた言葉で語り 合い、触れ合う環 境を創る。  <b>貫</b>	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。(地域と共に「あいさつのできる警固屋っ子」の育成)	自治会長会、民児協、補連協等への適時適切な情報発信と連携の充実	地域での児童・生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合。	85%						
		○生徒の「ことばの力」を高める。(読書習慣の形成)	・朝読書の時間の確保 ・図書委員会の啓発活動の充実	1か月に1冊本を読み切る生徒の割合。	75%						
		○自分の思いを表現する力を高める。	自立ノートの振り返り欄の記入の徹底	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	85%						
**	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚させ、いじめを許さない学校風土をつくる。	・道徳教育の重点目標を「自尊感情の育成」とし、教育相談やワークシートの効果的な活用 ・「今日のMVP」の取組	自尊感情についての生徒の肯定的な評価の割合。	70%						
			・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見・早期解決体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動の実施	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答。	100%						
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	思考ツールを活用した授業の創造	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%						
		○課題解決能力を高める。	課題を見付け、協働的に問題解決を図り、実践する単元の開発・実践	課題解決能力についての項目の生徒の肯定的評価の割合。	80%						

【k:評価】

A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達成)<100  
C:60≤(もう少し)<80 D:(できていない)<60